

1 古文基礎

1 仮名遣い

次の言葉を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

(1) いにしへ 〈千葉〉

(2) いづい 〈山口〉

(3)

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(4)

(5) たぐひなく 〈長野〉

(6) きはめたる 〈大阪A〉

(7) つひやし 〈千葉〉

(8)

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(9)

(10) おほかた 〈青森〉

(11) ふかるるやうに 〈埼玉〉

(12) ゐて 〈広島〉

(13) ゆゑ 〈佐賀〉

(14) かうむり 〈石川〉

(15) かやう 〈岐阜〉

(16) 著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(17)

なほさうざうしけれ 〈三重〉

(18) 著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(19) 交はり 〈山梨〉

(20) 著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

2

仮名遣い

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈東京〉

この頃の花こそ初心と申す頃なるを、極めたるやうに主の思ひて、はや
申^{さる}楽^{がく}にそ^アばみたる輪説をし、至りたる風体をする事、あ^イさましき事なり。
たとひ、人も褒め、名人などに勝つとも、これは一旦めづらしき花なりと思ひ
悟りて、いよいよ物まねをも直^{すぐ}にし定め、名を得たらん人に事を細かに
問ひて、稽古^エをいや増しにすべし。

(注) 申楽…日本の古い芸能の一種。

〔風姿花伝〕による

5

3

仮名遣い・作品の種類

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈滋賀〉

思^フひつ^ツつ 寝^ぬればや人の 見えつらむ 夢と知りせば 覚^さめざらましを

(1) 「思ひつつ」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

(2) この作品の種類として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 俳句 イ 漢詩
ウ 和歌 エ 随筆

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

7

係り結び

次は、「徒然草」の冒頭の部分です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〈京都〉

つれづれなるままに、日暮らし、硯すずりに向かひて、心にうつりゆくよしなし事を、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

〔徒然草〕による

8

主語把握

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈長崎〉

ある在家人^{*さいけにん}、山寺の僧を信じて、世間・出世^{*}深くたのみて、病む事もある。

*心から頼りにして、病気になる

れば薬までも問ひけり。

薬についても尋ねた

〔沙石集〕による

〔注〕在家人…僧にならず一般の生活を営みながら、仏教を信仰している人。

世間・出世…日常生活に関わること・仏教に関わること。

「薬までも問ひけり」の主語を書き抜きなさい。

9

言い換え・仮名遣い・内容把握

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈和歌山〉

月日は百代の過客^①にして、行きかふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口^②とらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして、旅をすみか^③とす。古人も多く旅に死せるあり。

（「おくのほそ道」による）

(1) 「過客^①」と同じ意味の語を、本文中から書き抜きなさい。

(2) 「とらへて」を現代仮名遣いに直して書きなさい。

(3) 「古人も多く旅に死せるあり」の内容として最も適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 昔の人の中にも、旅の途中で亡くなった人が多い。
イ 亡くなった人の多くも、死ぬ前に旅を思い出した。
ウ 年老いた人も、旅を夢見て亡くなることが多い。
エ 旧友の多くも、旅する前に亡くなってしまった。

10

仮名遣い・主語把握

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈静岡〉

粗忽^{そこつ}なる若衆、餅をまゐるとて、物数を心がけ、あまりふためひて、喉^{のど}そそつかしい若者が 召し上がる ひとつでも多く
に詰まる。人々せうしがりて、薬をまゐらせても、この餅通らず。

気の毒に思い 差し上げても

何かといふうちに、天下一のまじなひ手^{*}を呼びければ、やがてまじなひ^ウそつ(う)しているうちに

すぐに折って

て、そのまま、ちりげもとを、一つ叩^エきければ、りうごのごとくなる餅、
真ん中がくびれた形をした

三間^{*}あまり先へ、飛んで出る。

（「きのふはけふの物語」による）

（注）まじなひ手……ここでは、神仏などの力を借りて病氣などを取り除く者。

ちりげもと……ここでは、背中側の首のつけ根のあたり。

三間……約五・四メートル。

(1) 「まゐる」を現代仮名遣いに直して書きなさい。

(2) 「詰まる」「呼びけれ」「まじなふ」「叩き」から、その主語に当たるものが同じであるものを二つ選び、記号で答えなさい。

次の文章は、筆者がある年の夏を東山で過ごした後、冬の初めの東山に

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

ついて書いた日記の一節です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〈奈良〉

十月かみなづきつごもりがたに、あからさまに①来てみれば、こ暗ぐう茂れりし木の葉
ども残りなく散りみだれて、いみじくあはれげに見えわたりて、心地よげ
にさ②さらぎ流れし水も、木の葉にうづもれて、あとばかり見ゆ。
水さへぞすみたえにける木の葉散る嵐の山の心ほそさに

訳

「澄んだ水までもが澄むどころか住むことをやめてしまったのだ」
「なあ。木の葉が散る嵐の山の心細さに。」

(注) つごもりがた…月末頃。

あからさまに…ちよつと。

あと…流れの跡。

〔更級日記〕による

(1) 「来てみれば」の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答

えなさい。

ア 来てみると イ 来なくても

ウ もし来ると エ 来てみても

(2) 「さ②さらぎ」の動詞からは、水が音を立てて流れていることがわかります。
この流れの様子を表す副詞を四字の現代語で書きなさい。

(3) この文章に込められた筆者の思いの説明として最も適切なものを次から一

つ選び、記号で答えなさい。

ア すっかり木の葉が落ち、水の流れも見えなくなった十月末の静かな東山
は、かえって夏よりも趣があると感動している。

イ 木の葉は散り水はかれ、動物の姿も全く見えなくなってしまった東山を
訪れ、生命力にあふれた夏をなつかしんでいる。

ウ 嵐によって様変わりした東山を見て、自然の猛威の前では人間は無力で
あると知り、この世の無常を悲しく思っている。

エ 木の葉が散った東山で、自分が去った後に水の流れまでもが
見えなくなっていたことを発見し、寂しさを実感している。

13

仮名遣い・主語・会話文の指摘

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〈三重〉

むかし、男、いとうるはしき友ありけり。かた時さらずあひ思ひけるを、人の国へいきけるを、いとあはれと思ひて、別れにけり。月日経てお^アこせたる文に、
都の外の地方
親しい
おも
よこ

あさましく、対面せで、月日の経にけること。忘れやしたまひにけむ
あきれるほど
対面せずに
お忘れになったのだろうか

と、いたく思ひわびてなむはべる。世の中の人の心は、目離るれば忘れ^カ
ひじく
悲しく思つて
あわずに離れていけば忘

ぬべきものにこそあめれ。
れてしまうものようです

といへりければ、よみてやる。
歌を詠んで贈る

② 目離るとも思ほえなくに忘らるる時しなればおもかげに立つ
離れてあわずにいるとも、とても思えませんのに。あなたを忘れられる時なんて片時だつてないので、いつもあなたが面影に現れて、目の前にいます。
（「伊勢物語」による）

(1) 「あはれと思ひて」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

(2) 「おこせたる」「思ひわび」「いへりけれ」「よみてやる」の中で、その主語に
ア
イ
ウ
エ
 当たるものが他と異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

(3) 「目離るとも思ほえなくに忘らるる時しなればおもかげに立つ」の和歌は、手紙の中のどのような問いかけに対する返答として詠んだものですか。文章中の古文から十字で書き抜きなさい。

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。